

【四月の言葉（平成二十九年）】

比べなければ楽になる

私たちは、幸・不幸を人と比べて判断しています。

優越感と劣等感、それぞれ比べることによって起こる心の働きです。

人間は、すぐに人と人とを比べて、好き嫌い、損得、役に立つ、たたないという物差しで分けへだてし、選んでいます。

仏さまは「老少善悪の人を選ばれず」とあるように、誰をも分けへだてをされません。選ぶことをされません。全ての人をそのまま認めてくださっています。

自我中心に生き、自我のメガネを通して、他を分けへだてし、選び、他を傷つけずにおれない自分の存在を悲しみ、そんな凡夫ぼんぷの私をどこまでも見捨てず、救わずにはおれないと言う仏さまのお慈悲を喜び、お浄土への道を歩ませていただきますしよう。

※凡夫⇨欲望や執着などの煩惱に支配されて生きている人間